

# 令和6年度 学校評価の集計結果

本年度の学校評価の結果がまとまりました。ご報告が大変遅くなり申し訳ありません。アンケート回収率は下記のとおりです。また、自由記述欄にも多数の方からご意見をいただき、ありがとうございます。全体的には、高い評価となつていますが、どの面においても課題が残っています。いただいたご意見を参考に、改善を目指し努力してまいりますので、今後とも、本校の教育活動の推進に深いご理解と温かいご支援をくださいますよう、お願いいたします。

なお、この結果は本校ホームページにも掲載していますので、そちらからもご覧になれます。

【回収率】	児童	96% (5・6年全員)	保護者	51% (全家庭数)
	地域住民	83% (民生児童委員等)	教職員	100%



【評定基準】 A: 目標を達成 B: おおむね達成 C: 努力を要する

項目	評価指標	評定	学校による考察・改善方策
やさしく	地域と豊かに関わり合い、体験活動を通してふるさとを愛する心を育てることができたか。	B	児童の低評価の割合が保護者・教職員に比べて多くなっている。地域に出掛けたりゲストティーチャーなど地域人材を活用したりする学習は、昨年度からコロナ禍前のように積極的にやっている一方で、児童の意識を高められるように目的意識をしっかりと持たせ、振り返りを充実させていきたい。
	勤労と奉仕の喜びを、体得するような体験活動を推進することができたか。	B	教職員・児童の評価と保護者の評価には差がある。学校での係活動、委員会活動、当番活動、清掃活動の取組が、家庭での手伝い等には反映されていないことが考えられる。今後も、家庭での役割や手伝いを推進するなど、家族の一員としての自覚を持たせていきたい。
	保幼小中連携教育を重視し、推進することができたか。	A	生活科や総合的な学習の時間、授業参観、体験入学などを通して積極的な交流を行うことができた。松前幼稚園との合同避難訓練は園舎改修のため実施できなかったが、来年度以降はまた実施していきたい。今後も、可能な限りの交流を深めながら保幼小中の連携を図り、確実な引継ぎを行えるよう努めていきたい。
	互いのよさを認め合う仲間づくり、いじめを生まない、負けない集団づくりができていたか。	A	全体的に高評価を得ており、互いのよさを認め合い、いじめを生まない集団づくりができていていると思われる。しかし、教職員の児童への対応や言葉遣いについて保護者からご意見をいただいた。教職員の人権意識を高め、一人一人の児童を大切にしたい人間関係づくりを進めていきたい。
	元気のよい挨拶や返事などの習慣や、発達段階に応じた規範意識が身に付いているか。	A	委員会活動による積極的な挨拶運動や教職員の指導、保護者や地域の皆様のご協力により、挨拶の習慣が身に付きつつある。しかし個人差も大きいので児童への称揚や挨拶の意義の意識付けなどを続けていきたい。また、善悪を判断し、きまりを守る児童の育成を目指して、これからも健全育成に努めていきたい。
まじめに	生活科、総合的な学習の時間の充実を図り、地域に学ぶ教育を推進することができたか。	A	昨年度よりも高評価の割合が増えている。今年度も地域に出掛けての交流学習や、ゲストティーチャーなど地域人材を招いた学習活動を積極的に実施することができている。今後も、地域に学ぶ教育を充実させていきたい。
	基礎的・基本的な学習内容の定着と読書習慣の定着が図られているか。	B	教職員と児童の高評価が微増した。ICT機器の有効活用を進めて、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。今後も授業改善を進めながら、分かる楽しい授業づくりに励んでいきたい。ボランティアによる読み聞かせやみきま通帳の活用で読書への興味を高めている。家庭での読書習慣の定着につなげたい。
	見通し、対話、振り返りの重視による授業改善に努めることができたか。	A	学習課題の提示や児童同士の対話による活動の重視、授業の終末における振り返りを大切にしたい授業改善を、全教職員の共通理解の下で進めてきた。今後も、タブレット端末の効果的な活用を図るとともに、自分の思いや考えを明確にしながら、主体的・対話的・協働的に学び合う児童の育成に努めていきたい。
	本気で聞く力と、読解力を伸ばすことができていたか。	B	児童の評価は上がったが、教職員や保護者の評価は若干下がっている。じっくりと話を聞く力や、文章や資料から意図や情報を適切に読み取る力をもっと伸ばしていく必要がある。教科等の学習だけでなく、集中力や注意力を高め、日常的に話を聞く力を育てていきたい。
たくましく	自己管理能力を高め、命を大切に指導が図られているか。	A	全体的に肯定的な評価の割合が高い。交通安全教室や避難訓練だけでなく、集団下校や学年下校などの機会を捉えて安全指導に力を注いできた。保護者、地域のご協力により多くの児童が安全な生活を送ることができている。しかし、登下校の仕方や帰宅後の遊び方には課題も見られ、継続した指導が必要である。
	いじめ・不登校の未然防止と早期対応に努めているか。	B	児童からの肯定的な意見はあまり多くなかった。児童がより楽しく安心して学校生活が送れるように、更なるいじめや不登校の実態把握の工夫や相談体制の充実を図るなど、問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、早期解決に向けて組織的に取り組んでいきたい。児童や家庭との信頼関係を築く努力を続けたい。
	避難訓練や防災訓練などを適切に実施して、安全対応能力を育てることができたか。	A	昨年度よりもさらに高評価が増えている。本校の実態に合った避難訓練が実施され、教職員も児童も真剣に取り組んだ様子が見える。避難訓練で学んだことが、実生活の危機管理意識として定着するよう、指導を重ねていきたい。本年度の反省を生かして関係諸機関を交えた質の高い避難訓練を計画していきたい。
	心身ともに健康な生活習慣が身に付いているか。	A	コロナ禍を経て感染症の季節性が薄れているが、これまでの感染症対策（手洗い、消毒、咳エチケットなど）を続け、児童の健康管理に生かしている。早寝・早起き・朝ごはんの健康な生活習慣づくりには家庭の協力が欠かせない。今後も、保健主事、養護教諭、栄養教諭を核として、家庭と協力しながら進めたい。
	目標設定による体力づくりの推進に努めることができたか。	B	全体的に肯定的な評価の割合が低いが、昨年度よりは改善している。体育科の授業はもとより、休み時間の外遊びの励行など、運動に親しむ環境づくりを進めている。また、家庭での運動習慣の確立も図れるよう、更なる啓発に努めていきたい。
	挑戦・努力し続ける粘り強い心の育成に努めることができたか。	B	教職員や児童の評価が上がっているのに対し、保護者からはそれほどの評価を得られなかった。学校行事や日常の学習活動、運動などの場面において、目標を持って挑戦・努力し続ける粘り強い心の育成に努めているが、家庭生活の中で感じられていないと考えられる。機会を捉えて児童の頑張り伝えていきたい。
保護者・連携・地域	家庭や地域との連携を密にした地域ぐるみの見守り活動ができていたか。	A	登下校時における保護者や地域の皆様、関係諸機関の皆様による見守り活動により、児童は安全に登下校をすることができている。教職員も日常的に登下校指導や巡回に取り組んでおり、高い評価をいただいている。今後も、継続して皆様との協力体制を整えていきたい。
	学校や教育活動に関する情報提供を積極的に行い、家庭や地域と連携した教育活動を推進しているか。	A	ホームページや学校・学年だより、適切なメール配信などの活用により、学校の様子や必要な情報を発信することができた。今後も、更に見やすく分かりやすい情報発信を心掛け、保護者や地域の方々や直接情報交換ができる機会をつくって、しっかりと連携の下で教育活動を推進していきたい。